

「試験は迎え撃つ」を、あらゆる試験対策の「基本のキ」に

開倫塾

塾長 林明夫

Q：もうすぐ2018年度の新学年に入ります。入学試験、定期試験、3大検定試験でよい点数を取り、第一希望校合格、学校成績アップ、検定試験合格を果たすにはどうしたらよいですか。

A：(1) 各々の試験の日はほぼ決定していますので、入学試験、定期試験、3大検定試験を「迎え撃つ」ことです。

(2) 各々の試験の日が決まっているのに、その直前まで何の準備もせず、時の流れに身を任せてただボーッとして時間を過ごし、直前になって泥で縄をなうような「泥縄（どろなわ）勉強」をしても、何の効果もありません。不合格や成績ダウンの結果が待っているだけです。

(3) 試験の日はほぼ決定され、発表されているものも多いですから、それらのすべての試験を「迎え撃つ」ことです。定期試験は、多くの学校でほぼ前年と同じ日程と考えてよいでしょう。

Q：試験は「迎え撃つ」ですか。例えば、入学試験はどのように「迎え撃つ」とよいですか。

A：(1) 来年、ご自分が受験する入学試験は何月何日に行われるかを調べ、ノートに書き、机の前に張り出すことです。

(2) 例えば、大学入試でしたら、できるだけ早いうちに、推薦入試、大学センター試験、2次試験、独自入試などの中で、ご自分が受験する試験をほぼ決定し、その日程を調べることです。入試に課せられる科目も調べてください。入学願書の内容と提出日、入試の費用も調べてください。合格発表の日程や入学に必要な学費、入学後の標準的な生活費、可能なアルバイトや収入金額、奨学金の種類や金額なども調べてください。金銭面も含め、大学入試と、合格後にどのような生活になるかを予め十分に調べ尽くし、「受験生としての自覚」をしっかりと持ったうえで、1年後の入試に臨むことをお勧めします。

(3) そもそも、何のために大学に進学するのか。その大学を受験するのか。大学入学後、卒業までに何を学びたいのか。大学卒業後、大学院に進学するのか、社会のどのような分野で活躍したいのか。どのような人生を送りたいのか。これらはすべてご自分のことですから、これから大学入試の日まで、いや、合格を果たして大学に進学してからも、ご自分の力で真剣に考えてください。

Q：そのあとはどうすればよいですか。

A：(1) 入試の日から逆算し、いつ何をしたらよいかを時系列で考えることです。

(2) 大学センター試験の過去問は少なくとも 15 年分を、どんなに遅くとも半年前、つまり、夏休みに入る前の 7 月初旬から、最低でも 6 回は繰り返しやり抜く必要があります。そのためには、高校 3 年生の学習内容は、受験科目だけでも 6 月いっぱいには終了させておかなければなりません。

(3) 6 月いっぱいにはすべての学習内容の「理解」「定着」を図るには、2 月から 6 月までの 5 か月間は、文字通り、「必死」「一所懸命(一つの所で命を懸けるくらい熱心に)」に、寸暇を惜しんで机に向かうことが求められます。

(4) 高校 1・2 年の総復習をするよい機会が、2 月の「学年末試験」です。学年末試験を徹底的に活用して、高校 1・2 年の教科書や教材、授業ノートをスミからスミまで「理解」し、「定着」を図り、全科目とも 100 点満点を目指してください。

(5) 学校成績がよければよいほど、様々な種類の奨学金を利用できる可能性が高まります。

(6) 英語検定、漢字検定、数学検定の 3 大検定も、大学入試に直結しています。できれば 1 学期に、遅くとも 2 学期に、3 大検定のすべてに挑戦して合格を果たすことを、心からお勧めいたします。

Q：高校入試、中学校入試(私立中入試、公立中高一貫校入試)はどのように「迎え撃つ」とよいですか。

A：(1) 以上の大学入試についての話を、高校入試、中学校入試と「読み替え」て、どうしたらよいかをご自分で考え、考えを紙に書いてまとめてください。

(2) 2018 年に入学試験のない学年(非受験学年)の塾生の皆様は、大学入試の説明を何回か読み、自分は 2018 年に何をしたらよいかを考えてください。そして、考えたことを紙に書き、まとめてみてください。

(3) 皆様が考えて紙に書いた内容を実行するかしないかは、皆様の自由です。1 年後、または、数年後に、第一希望校に合格するためにしなければならないことがわかっているのに、それを行わないのは「自分の責任」です。勉強は、「自己責任」「自助努力」で行うものです。「自分の未来は自分で切り開く」、「あきらめたらおしまい」です。

(4) 「試験は迎え撃つ」。これを、入学試験、定期試験、3 大検定試験などのあらゆる試験対策の「基本のキ」にしましょう。